

国立大学法人千葉大学中期目標

(前文) 大学の基本的な目標

千葉大学は、「千葉大学憲章」に掲げた理念に基づき、その使命を達成するため、基本的な目標を以下のとおり定める。

人類の文化の継承と新たな知の創造、イノベーションの創出を担う世界水準の教育研究拠点として、グローバルな視点から積極的に社会との関わりを持ち、高い教養、専門的な知識・技能と優れた問題解決能力を備えた人材を育成し、現代社会における様々な課題を解決するための創造的・独創的研究を展開して、人類の平和と福祉並びに自然との共生に貢献する。

- (1) 世界水準の教育研究機能を有する未来志向型総合大学として、その多様性、学際性、そして国際性を最大限に生かし、優れた教育プログラムと最善の環境を提供することで、「俯瞰力」「発見力」「実践力」を身につけ、問題解決能力のあるグローバル人材を育成する。

能動的な学びによって普遍的な教養を身につけ、自立して、自らの良心と社会的規範に則って行動し、創造性・国際性とチャレンジ精神に富む人材の育成を推進する。

- (2) 先駆的・先端的研究及び融合型研究を推進するとともに、特色ある研究分野の戦略的強化をして卓越した大学院を形成し、世界・日本・地域に貢献可能なイノベーション創出に結び付く世界水準の教育研究拠点とする。

- (3) 国内及び海外の教育研究機関、行政、地域社会、そして企業等と積極的に連携し、知の発信拠点形成を推進して、社会への貢献及び文化と科学の発展に寄与する。

- (4) 千葉大学の理念「つねに、より高きものをめざして」の下で、持続的かつ自律的に発展を続けるために、多様な構成員が積極的に協働しつつ、世界水準の教育研究機能を有する未来志向型総合大学としての発展を目指す。

上記目標を達成するため、中期目標は以下のとおりとする。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

中期目標の期間は平成 28 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日までの 6 年間とする。

2 教育研究組織

本中期目標を達成するため、千葉大学の教育研究上の基本組織として、別表1に記載する学部、研究科等並びに別表2に記載する共同利用・共同研究拠点及び教育関係共同利用拠点を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

◇ 学士課程教育においては、ミッションの再定義で明らかになった人材、自己を知り、他人を思いやる心を持ち、問題の本質に迫ることのできる人材、グローバルな視野を持ち世界をリードする人材、イノベーション創出及びサステナブル社会形成に貢献できる人材の育成を目指す。

◇ 大学院課程教育においては、ミッションの再定義で明らかになった能力及び高度な専門的知識・能力を持ち、創造性豊かで高い倫理観を持ち、イノベーション創出を担う研究者・高度専門職業人の養成を目指す。

特に、理工系分野の博士課程においては、俯瞰力と独創力を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの育成を目指す。

◇ 学位の国際通用性を高めるため、教育のグローバルスタンダードへの対応を推進し、教育の質的転換を行う。

◇ 学生の能動的学習を促す教育を実践し、情報通信技術を応用した教育方法を開発し、充実させる。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

◇ 教育の実施及び支援を効果的に行うための柔軟かつ多様な教員配置の体制を整備し、教育研究の質を向上させる。

◇ 快適な学習環境を整備し、教育の効果を高める。

◇ 教育方法の改善、教員の職能開発を推進し、教育の継続的改善を実施する。

(3) 学生への支援に関する目標

◇ 学生の修学、生活、進路等に関わる相談、支援をきめ細かに実施できる体制を充実し、安全かつ健やかで豊かな学生生活の実現を支援する。

◇ 学業と実践との調和ある教育により、学生の高い就業意識を育成するとともに、

就職相談、就職指導等の支援を推進し、学生の主体的な進路選択によるキャリア設計を支援する。

- ◇ 外国人留学生の生活と学習を支援するために、施設整備を進め、相談体制、支援内容を充実させるとともに、留学する日本人学生への支援を充実させる。

(4) 入学者選抜に関する目標

- ◇ 入学に際して習得しておくべき内容・水準等を含む入学者受入方針を継続的に見直すとともに関係者に対して明確に示し、これに相応しい入学者選抜方法に改善することにより、意欲的で多様な人材を受け入れる。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ◇ 基礎から応用に渡る先駆的・先端的研究及び融合型研究を推進し、国際的に高く評価される成果、世界・日本・地域に貢献可能なイノベーション創出に資する成果を生み出すことにより国内外の牽引役としての役割を果たす。

特色ある研究分野を戦略的に強化し、国際的に卓越した研究拠点を形成する。また、得られた研究成果の体系的な発信等により、産業・地域等への成果の還元を拡充する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- ◇ ミッションの再定義で明らかになった先端・先駆的分野及び特色ある分野の戦略的な強化を行うため、各種資源（資金、人材、設備、時間等）の戦略的な活用を行うための全学的な研究強化体制を整備する。また、研究の持続的な強化・質の向上のための研究人材の多様性の向上、融合型研究の推進、研究組織の流動性の向上、研究支援人材の確保・育成、適切な研究業績の評価等のためのシステムを整備する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- ◇ 自治体等地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進し、学術的な発展に寄与する。

- ◇ 先端的教育、研究及び医療の中核機関として、地域社会と連携、協力して、産業、学術、文化及び福祉の一層の発展向上に貢献する。

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

- ◇ 新たに創設する国際教養学部を取組を全学に波及させつつ、人間力に富むグローバル人材育成を推進する。国際通用性を意識した教育プログラムの質保証に向けた取組や海外の大学等と連携した教育研究を進めるとともに、国際感覚を涵養するた

めの多様な教育機会を提供し、国際的にも活躍できる人材育成を目指す。また、活発な国際交流を展開して、留学生を受け入れる国際的な高等教育の拠点、国際共同研究の拠点としての責任を果たす。

徹底した「大学改革」と「グローバル化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引するための取組を進める。

(2) 附属病院に関する目標

- ◇ 高度な先進医療を担う病院として、良質で高いレベルの医療を提供し、地域医療との連携強化によるシームレスな医療を提供するとともに、国際的な医療展開を推進する。
- ◇ 適切な経営戦略のもと、財政基盤を強化し、職場環境の向上を目指す。
- ◇ 医療教育体制の充実を図り、国際的に通用する有能な医療人を育成するとともに、医療教育者育成を推進する。
- ◇ 先端医療の開発と導入を促進する。

(3) 附属学校に関する目標

- ◇ 附属校園は、教育学部等との緊密な連携のもと、幼児・児童・生徒の心身における豊かな成長を目指す教育実践を基盤とし、実践的な教育研究を進めるとともに、質の高い教員を養成するための学部・大学院教育に参画し、取組の成果を提供することを通して地域の学校教育に貢献する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

- ◇ 学長を中心とする運営組織を基盤として、ガバナンス機能を強化する。社会のニーズを的確に業務運営に反映させるとともに、国立六大学連携コンソーシアム（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学）をはじめとした他大学との連携を推進し、学長のリーダーシップにより大学のビジョンに基づき、学内資源を戦略的に再配分して、効果的・効率的な大学運営を目指す。また、内部統制機能の構築、運用により法人の健全な業務運営を確保し、社会的信頼に応える。
- ◇ 教職員の個性及び能力を活かし得るよう人事・給与システムの弾力化を推進し、優秀な人材を確保、育成する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

- ◇ 社会の変化やグローバル化に対応した教育研究の展開及び強みや特色を伸長し、社会的な役割を果たすため、大学院を中心に機能強化を図る等、教育研究を効果的に行うための体制を見直し、柔軟かつ機動的な組織改革を実施する。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

- ◇ スタッフ・ディベロップメント（SD）を強化、充実し、専門的知識及び業務遂行能力の向上を図るとともに、業務の効率化・合理化を推進する。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

- ◇ 教育研究を充実させるため、科学研究費助成事業をはじめとする外部資金を獲得するとともに、自己収入の増加に向けた取組を推進する。

2 経費の抑制に関する目標

- ◇ 健全な業務運営を行うために経費を抑制する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- ◇ 資産の運用管理を効果的・効率的に行う。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

- ◇ 適切な自己点検・評価を実施するとともに、評価結果を改善に活かす。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

- ◇ 大学における教育研究活動等の公開性、透明性を確保し、社会に対する必要な説明責任を果たすとともに、国内外から信頼される千葉大学ブランドの確立を目指す。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- ◇ 地球環境に配慮した良好なキャンパス環境を整備して、質の高い教育研究環境を確保し、充実させる。

- ◇ 施設の有効利用を促進して、既存施設資源の戦略的な管理運営により教育研究活動の充実及び活性化に資する。

2 安全管理に関する目標

- ◇ 安全管理に関する監視、指導を徹底するとともに、職場環境の整備に努め、安心して学べる場と安全な教育研究環境を提供する。

3 法令遵守等に関する目標

- ◇ 法令遵守を徹底し、社会からの高い信頼を維持確保する。特に、研究活動における不正行為、研究費の不正使用の防止体制を強化し、研究者倫理教育も含め、研究活動に対する高い信認を確保するとともに、情報セキュリティの基本方針に沿った情報の利用管理を徹底する。

別表 1 (学部、研究科等)

<p>学部</p>	<p>国際教養学部 文学部 法政経学部 教育学部 理学部 工学部 園芸学部 医学部 薬学部 看護学部</p>
<p>研究科・学府及び研究科等連係課程実施基本組織</p>	<p>人文公共学府 専門法務研究科 教育学研究科 融合理工学府 園芸学研究科 医学薬学府 看護学研究科 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科に参加 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・ 千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科に参加 総合国際学位プログラム</p>

別表 2 (共同利用・共同研究拠点及び教育関係共同利用拠点)

<p>【共同利用・共同研究拠点】 環境リモートセンシング研究センター 真菌医学研究センター</p> <p>【教育関係共同利用拠点】 看護学教育研究共同利用拠点(大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター) 教職員の組織的な研修等の共同利用拠点(教育・学修支援専門職養成) (アカデミック・リンク・センター)</p>
